

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470600285		
法人名	サントラフィック株式会社		
事業所名	グループホームふるさと		
所在地	三重県津市戸木町多度4113-56		
自己評価作成日	平成22年6月1日	評価結果市町村提出日	平成22年8月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470600285&SCD=320>

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 22 年 7 月 7 日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ふるさとは「家庭的な雰囲気の中で笑顔を絶やさず楽しく」をモットーに毎日の生活を送っており浸透している。お風呂も「榊原の湯」の大浴場がありのびのびと入浴している。年間行事も様々で8月には関連施設との夏祭りがあり地域の方々、ボランティアさん、ご家族様も参加して盛大に開催しています。日曜日にはドライブにも出掛け公園に行ったり、四季折々の花を観に行ったりしている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1階がデイサービス、2階にグループホームがある。周りも同一法人が展開するグループホームやショートステイなど介護事業所があり、一角には母体の企業の会社があり、いつでもすぐに連携がとれる体制である。周辺はオーナーの所有する広大な土地(山林)で、静かな環境で利用者の散歩コースになっている。日本有数の温泉地、榊原温泉に近く、週1回温泉湯を榊原から運び、入浴に利用し利用者から喜ばれている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現場としての理念は「常に笑顔」であり職員は実践している。	ホーム独自の理念を作ろうと、管理者、職員みんなで、自分たちが目指していることは何かを討議し、その中から「常に笑顔」を理念として掲げている。いつも笑顔で接することを心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に参加しており会議や祭りの際に交流をしている。	自治会に加入し、地域とのつきあいは大事と考えている。夏祭りなどイベントに地域の方も招き交流している。母体の会社の管理職が地域の共同作業等に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長始め地域の方、包括支援センターの担当者参加の元に運営を進めている。	同一法人内のもう一ヶ所のグループホームと合同での推進会議を開催している。参加メンバーが自治会中心で地域の情報を得る機会でもある。前回から地域包括の職員にも入ってもらい、今後充実させていきたい意向である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が日常業務に入っている為部長がしている。報告は受けている。	市との窓口は、母体の会社の管理職がしており、直接的な関りはほとんどない。	市との関係作りは大事なことであり、管理者と一緒に役所に出向き、関係作りを構築するよう期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームは2階にありエレベーターでない外には出れないが通路階段の鍵は日中はなるべく開放している。	2階が居室で階段には安全を考慮して柵が設置されている。エレベーターや玄関のドアは自動ロックで利用者が自由な出入りはできないが、昼間の時間帯にはロックをはずすなど配慮をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等含めて普段から職員間でも話題になり話はしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会がなく活用されていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書などで詳しく説明している。入居後も状況に応じて管理者から家族や職員にも説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との面会が多いので個別に話し合う事も早い段階で出来る。エレベーター内にもご意見箱も設置しており会議で取り上げるなど今後に役立っている。	家族の面会時など何でも話してもらえよう努めている。最近、トイレに消臭剤を置いて欲しい要望が家族からあり、さっそく母体の会社の管理職に購入を申し出て、各居室のトイレに消臭剤を置いた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見はなかなか反映されないが去年に比べ話し合いの場は少ないなりに持っている。今後も反映されるようにしていく。	管理者、職員とも自由に母体の会社の社長に意見が言える。リビングの食堂部分の床が高いため、履物を脱ぐなどの不便が生じ、昨年、職員がそこをバリアフリーにしてほしい提案をして改修してもらった事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員は家族のように日々楽しく向上心を持っており雰囲気も良い。もう少し会社側に現場の状況の把握をしてもらいたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画作成者、介護ヘルパーや防火管理等今年に入り研修に参加出来ている。会議でも研修結果も報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組みはしていない現状である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくりと話を傾聴し少しでも安心して生活して頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が中心となり話し合いの中で家族との関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の状況を把握し見極めた上で家族に説明し納得をしてから対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事の共同作業等、利用者個々に合った事をして頂いている。が、困難な時も多く見られる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要時は家族の協力を得られるよう協力体制は確保されている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と外出(コーヒーを飲み)される方も見えたり、昔の知り合いが面会に来られたりされている。	かつての仕事仲間の方の訪問もあり、継続を絶やさないうよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り話題を提供しているが個々の空間も大事にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者が中心となり家族からの相談や支援には親身になって努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちを大事にしながら話題を変えたり色々工夫しながら職員同士話し合い対応している。	思いを汲み取るよう、ひとりの職員だけでなく、いろいろの職員が関わりながら、思いを表出できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時やその後も本人や家族から話を聞き職員も常に把握をしており、それに沿って話をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床時のバイタル測定から始まり就寝後の巡回まで現状把握に努め場合によっては1階の看護師と相談している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員の意見を反映し3ヶ月に一度見直ししており会議ノートやヒヤリハット事例も参考にあえて朝の申し送りは長くしていない。職員全員が説明出来る状況である。	職員会議で話し合い、会議ノートや介護記録などを参考に介護支援専門員と管理者で計画書を作成している。作成後は全職員に周知している。計画は3ヶ月に1回見直ししている。家族の同意も得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録(カルテ)だけでなく連絡ノートを利用し情報の共有も図っており問題点が見つかってもすぐに話し合いをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々新たな発見が見られ職員も柔軟に対応するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全面に関しては常に考慮しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医訪問診療を利用している方もいるが家族が昔から掛かっている医院に受診される方などさまざまである。	協力医療機関の医師の往診が月に1回あり、半年に1回、血液検査をしてバイタルチェックをしている。受診は家族が出来ない場合、管理者が受診支援し、結果は記録し家族へも報告をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で利用者に変化が見られた場合関連施設(1階)の看護師に情報を伝え判断を仰ぎ管理者が最終判断をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が病院関係者と家族と連携を取りながら利用者が安心して治療を受けられるように関係づくりをしている。介護サマリーも必要に応じて記入している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期介護は出来ないことは家族に伝えているが家族の強い希望があり病院側とも連携し終末まで介護した例はある。ケースバイケースと考えている。	終末期の看取りはしない方針で契約時に説明をしている。しかしながら、医療面で入院継続ができない方があり、医師との連携の下、最期1週間前まで看取った。その時の経験を踏まえ、できるだけ援助はしたい思いはあるが難しいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時について訓練はしていないがマニュアルがあり個々で初期対応など考えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練が年1回合同であるが今後はグループホームだけで訓練をする予定である。対策マニュアルは掲示板に貼っており職員も共有している。	年に1回、合同での防災訓練を実施している。今後は、グループホーム単独でも訓練をやっていきたい意向である。	合同訓練での連携の確認などは大切なことである。更に独自で階段からの誘導訓練や通報訓練など地域の方の協力も得ながら様々なことを想定しての訓練を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊敬の念を持って接している。理念にもある笑顔を決やせず家族同様の気持ちで日々接している。	利用者が「お客様」であることを忘れないよう心がけて、いつも言葉使いには気をつけている。トイレ、洗面台が各居室に設備されてプライバシーが保たれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いは傾聴している。自己決定については尊重はするが職員の意向に重きを置くケースもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれが思い思いに生活が出来る様ペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援はしているが季節に見合った衣類着用時は説明し納得した上で適切な衣類着用を促している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時間は職員と一緒に盛付け等は一緒にしている事もある。	業者委託の献立である。できるところは利用者にも手伝ってもらう。ほとんどが自立できる方なので、職員は食事介助より見守り中心である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立のもとで食事提供や定期的に職員が水分補給も行っている。食事摂取表はカルテとは別にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けをしており毎週日曜日にはポリデントにて洗浄しており清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレが各居室に設置されており、適宜チェックしている。失禁しやすい方には紙パンツを使用してもらうがトイレ誘導はしっかりし、事前の対応をしている。	利用者の様子や行動などからこまめにトイレ誘導をしている。夜間は紙おむつで対応する方もあるが、居室内にトイレがあるので排泄がスムーズにできる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操をしたり、腹部マッサージを取り入れて予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	グループホームにも浴室はあるが1階は大浴場で温泉の湯でありゆったり入浴している。午後からで男性と女性で一日おきで使用している。	併設の1階のデイサービスと共用のお風呂である。職員が榊原温泉からお湯を運んで温泉浴を楽しんでもらっている。午後の時間に男女一日おきに入浴している。入浴は利用者の体のチェックもでき大切ととらえている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の症状に合わせてながら気持ちよく睡眠が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬表を作成しており薬の内容についてはほぼ理解している。必要に応じて管理者が提携医と相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たみや読書、トランプ、歌(歌詞カードあり)など楽しめる事がたくさんあり気分転換にも繋がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回は行事がありそれ以外にも日曜日にはドライブに出掛けたりしている。天気の良い日は散歩に出掛けしている。	2階なので、下に降りて駐車場で外気浴したり、散歩に出かけている。月例で花見や買い物などのお出かけの機会も作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自らが使用される事はないが財布がないと不安な方には家族と管理者が相談し持てるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話についてはその後の混乱が多く見られる為基本的にはしていない。お正月には年賀状を書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りの季節を表した作品を壁に貼ったり廊下などを清潔にしている。天候に合わせて窓の開閉やブラインドでの光の調節を行っている。	特に気になる臭いはなく明るい。内装にひのきが使われて温かみを感じる。利用者、職員合作の七夕飾りが飾られて季節感を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空間が狭くなかなか自由に談笑出来る場がない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやテレビ台以外はすべて好みのものである。テレビや机を持参されている方も見える。	着替えの衣類が衣装ケースにきちんと整理され、概ねシンプルな居室である。中にはテレビや椅子など持ち込まれて自分の居室らしい設えにされている方もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	くつろげる空間がなく狭く感じる。その中で出来る事を安全面を考えながら工夫している。		